

## 令和4年6月13日 文教厚生委員会 教育長挨拶

高校総体が終わりましたして1週間、前半戦が終わりましたしてから2週間がたちました。4月の中旬以降、部活動を起因とする高校のクラスターが多数発生いたしました。

特に模擬大会とでもいってもいい練習試合などの場でクラスターが発生して複数校に広がり、そして学校へ広がるといった例が多数見受けられまして、本当にこのまま高校総体が開催できるだろうかと当時非常に心配しておりました。

私に高校総体を中止、開催しないことを決める権限はございませんので、県立学校の生徒は高校総体に参加させないという判断をせざるを得ないかもしれないという状況まで追い詰められていたところでございます。

その後、ゴールデンウィークに一日休校日をとってもらい、感染を抑え、ゴールデンウィーク明けには全校の校長に対して、再度、感染対策の徹底と生徒を参加させられないかもしれないという私の危惧を伝え、子どもたちにも今一度、感染対策を部活動単位で話し合っ欲しいということをお願いしました。

多くの子どもたちが、真剣に話し合いをして、感染対策を徹底してくれました。特に3年生、コロナ禍でしか知らない高校生活、制限された生活しか知らない3年生をチーム全体として大会に参加させようという下級生の熱い思いがあったことだろうと思います。

そういった思いもあって結果として高校総体で感染が広がったというようなことはございませんでした。

非常に徹底された状況で行われたということでございました。心配であれば、県の方から抗原検査の補助をするからということで、競技によって事情が違いますので、高体連が最終的には競技団体の判断としたことを、それで結構ということにしましたので、検査をやった競技、やらなかった競技ありますが、いずれにしても義務ではありませんが、大会中に心配になった子には検査したということもございました。

非常に一人一人が気を遣ってくれたということで、今日の結果がでたという風に思っております。子どもたちあるいは学校、そして気を遣ってくださった保護者の皆さんにこの場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。

これから、まだ今月中国大会の後半戦が始まります。そして、インターハイも始まりますし、高校野球も甲子園に向けて始まります。

県内の大会は、引き続き抗原検査を必要であればやってもらうということですが、県外の大会、中国大会やインターハイに行った場合には県外の生徒と交わる、触れ合うということがございますので、帰ってきたときには希望者はPCR検査を受けて学校内に持ち込まないということにし、この落ち着いた状況をいろいろな努力で引き続き継続していきたいと思っております。

子ども達が平穏な高校生活を送れますように、我々もしっかり努力しますし、今の高校生の努力を無駄にしないように支援をしていきたいと思っておりますので、そういった予算も5月補正予算案での計上分や調整費なども使わせていただきながら、当初予算での計上分も含めてでございますけれども、いろいろな対策をとりながら、3年生があと半年良い生活が送れるように、また下級生含めまして、落ち着いて、学び、部活動、遊び、そういったことにしっかり取り組めるような支援をしてまいりたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。